

学校だより

温故知新

恵那市立岩邑中学校

学校の教育目標

確かな学力 豊かな心 逞しい体

令和4年10月3日

『主体性』

校長 丸山 成之

学校だよりの配布は月初めですが、原稿は1週間程前に作成しないと間に合いません。そのため、作成している今は体育祭前です。体育祭の様子については次回号でお伝えします。

さて、過日テレビで2023ラグビーワールドカップフランス大会を紹介する番組が放送されていました。日本は前回2019日本大会でベスト8になり、すでに出場が決定しているのですが、その中で過去の大会に触れていました。特に分岐点として注目されていたのが2015イングランド大会です。

この大会で日本は、強豪南アフリカを試合終了間際に逆転で破る大金星を挙げています。24年ぶりの勝利で日本では号外が配られ、世界からも注目されました。その理由は、勝ったことではなく試合展開にあります。

試合終了間際、日本は3点差で負けていました。そこで日本は相手ゴール前でペナルティを得ます。最後のワンプレーで、選択肢は2つ。同点となるペナルティキックを選ぶか、それとも逆転をねらってスクラムからのトライを選ぶか。

結果はスクラムからボールをつなぎ、劇的な逆転トライにより勝利したのですが、この逆転トライの背景にあったのは『**主体性**』です。このとき、日本代表のヘッドコーチの指示は「ペナルティキックで同点をねらえ」だったのですが、選手の選択は「スクラムからのトライをねらう」というものでした。

ヘッドコーチは試合前、リーチ・マイケル主将に「最後の判断は任せる」と言っていたそうです。リーチ・マイケル主将は「ワールドカップには勝ちに来たので、同点をねらうという考えはなかった」と言います。

かねてからリーチ・マイケル主将は『主体性』をチームのテーマに掲げ、ヘッドコーチらが打ち出した計画を受動的ではなく、能動的にかみ砕き、共有するチームを目指してきました。『主体性』とは、「**自らの意志・判断によって、自ら責任をもって行動する態度や性質のこと**」を言います。選手たちは、自分たちで考え、判断し、共有しながら、ワールドカップに向けて、世界一苛酷と言われる練習を乗り越えてきました。そして、このことを自信として、ワールドカップの試合においても、彼らは、主体性をもって、自らの意志と判断で行動し、日本のラグビー史上に残る歴史的なトライにつなげたのです。

このことから学ぶことは、何かを成し遂げるとき、「自らの意志・判断によって、自ら責任をもって行動すること」が重要であるということです。私たちは自分一人の力で生きていくわけではありません。さまざまな場面で、常に自分はどうか考えるか、自分はどうか関わり責任をもつのかという、他人事ではなく当事者としての意識が必要になります。

これからの学習や諸活動、毎日の生活にあたっては、自らの意志・判断によって、自ら責任をもって行動すること、つまり『**主体性**』をもって取り組むことを期待し、大きな成長をみたいと強く願います。